

二〇二一年の私たち
 木造中学校二年 松本 凜
 「がんばらう」のりこえよう。そんな声
 が、みやまのようには現在も「新型コ
 ロナウイルス」はありません。コ
 ロナの影響で命をおとした方、大
 切な人を失った人がいること
 をけしてわすれてはいけません。
 思います。海外ではいた
 るところでも感染者が増え、日
 本より一段と予防を心がけてい
 る。危険な思いを毎日しています。
 日本だけじゃなく、今も「今」が
 大事なものは、自分だけが「か
 苦ししい思いをしていくわけでは
 ない。ことうでほしい。周
 りをみれば、あなたの家族も、い
 ろんな人も世界中が、あなた
 の味方だから。私もいろんな人
 に背中をおたせてます。休校とい
 うものを私は今年の二年生に

なつて経験しました。最初は楽しかったのに
だんだん私の気持ちはずんずん暗く
なりました。先のみえない日々
閉じこめられていようや気分でした。今は学
校に行けていて、毎日学校にいまだくない
なれと思いはがりに行けることも幸せだ
と感じるようになりました。
私たちは今まで当たり前だった日常をうば
わられたことにより、だんだんとリセット
する日常にありがたさを覚えてる人もた
くさ
んります。もしかしたら今の世の中
温かい感謝を込めてくわえては
めかもしません。
二〇二一年の私たちはまっとうな
いることでした。東京オリンピックの選
手
たちも、いつもよりほろろしいに
合にはなると思っています。私たち
は先の未来に胸
をのくやませる。二〇二〇年の私
たちは
るこそを今協力して、二〇二一年
の私たちに
つがい
てい
ます。